

第1回新宿区文化芸術振興会議（第8期）議事要旨

■開催日時 令和6年12月25日 午後1時30分から午後3時30分まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第二委員会室

■出席者

委員 垣内恵美子 星山晋也 芥大輔 藤岡紗絵 松井千輝

梅本武文 工藤真実 大和滋 岡室美奈子 新井一輝

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順

事務局 村上文化観光産業部長 村上文化観光課長 原文化観光係長 五十田主任

■議事の進行

1 開会

会長選出までの間、事務局が会議の進行を務めた。

2 委任状の交付・委員の紹介

*任期：令和6年9月9日から令和8年9月8日まで

3 区長挨拶

吉住新宿区長が、会議の開催にあたり、挨拶を述べた。

4 会長の選出

新宿区文化芸術振興会議規則第4条第1項及び第2項の規定に基づき、委員の互選により、全員一致で、垣内委員を会長として選出した。

5 会長挨拶

垣内会長が、会長就任にあたり、挨拶を述べた。

6 副会長の指名

新宿区文化芸術振興会議規則第4条第2項に基づき、垣内会長が梅本委員を副会長として指名した。

7 議事

(1) 本日の進行は、次第によることを確認した。また、検討内容のとりまとめ及び資料として保存することを目的として、会議の録音について、各委員の了承を得た。

(2) 「新宿区文化芸術振興会議の運営（進め方）について」

資料2に基づき、事務局が説明を行い、第8期の活動は資料のとおり運営することが確認された。

(3) 「新宿区文化芸術振興会議の調査審議事項について」

第8期の調査審議事項等について、意見交換を行った。

(4) 調査審議事項について、専門部会で論点整理を行い、次回会議で審議することが確認

された。

【以降 意見交換】

・新宿の文化にはずっと関心を持っており、新宿の文化は一点集中型ではなくて、様々なところに文化の拠点があって、それが渦を巻きながら連動していくようなところが魅力だったと思うが、それが新宿駅周辺が再開発されることで、様々なしていくのかが気になっている。

・いろいろなところに文化が点在しているのがいいところなのだが、1960年代頃は、その文化の渦が非常に大きな渦を巻いていたような気がする。

・今も1つ1つの文化は非常に魅力的なものが多いが、それが大きな渦として見えないような気がずっとしている。例えば新宿は文化のまちかと聞かれたら、住んでいる人は文化のまちだと答えるかもしれないが、外側からはそうは見えていないのではないかという懸念もある。

・派手なことをやればいいという意味ではなく、かつて新宿が舞台芸術の中心だったと思うが、今は東京芸術祭が豊島区を中心に開催されているので、舞台芸術の中心は完全に豊島区に移った。アートも、例えば六本木アートナイトのようなものが目立つ。新宿はたくさんいいものがあるのに、今、非常にアピール力が弱いのではないかとずっと気にかかっている。

・一点集中型の文化ではなく、特に新宿は非常に多国籍でもあるし、様々な文化が渦巻く、その魅力をどう伝えていくかをちゃんと考えていかないと、新宿が文化のまちとして、どんどん認知されなくなっていくのではないかと懸念している。

・特に駅周辺が再開発されることで、渋谷など他のまちと同じようになってしまわないかと気にかかっている、そういう中で新宿独自の文化をどうアピールしていくか。

・例えば、駅周辺の紀伊國屋、中村屋等の古くからの文化の拠点を生かしながら、他の区にはない魅力を打ち出して、どのように新宿を文化のまちとしてアピールしていくかを考えないと、どんどん文化の中心から取り残されていくのではないかと危機感を感じる。

・独自文化は何なのか、それをどうアピールしていくのか。区長挨拶にもあったように、良さをどのようにアピールしていくのかというところとも通じる意見かと思う。

・第8期の課題だが、第7期のを続けていくのがいいと思う。特に「新宿区全体の展開を見据えた、新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化」の分析とかもまだそんなにやられていないのではないか。

・文化、文化、やれ、やれと言って、賑やかになればいいというものではないと思う。まずそういう中の要点みたいなもので何があるかを見つけることが大事ではないか。そういう中で芸術家主体の連帯の促進をさらに進めていく必要があると思う。

・芸術文化の振興という、やはり音楽や演劇とかパフォーマンス的なものが中心になると思うが、その中に新宿は美術館を忘れないようにしなければならないと思う。

・6年、7年前に新宿に移り住んできた。移り住む前は、新宿駅周辺がやはりインパクトが強いので、歌舞伎町や駅周辺とかのイメージが強かったが、何年か住むうちに自宅周辺とか、結構たくさんの文化施設があるのに気づかされた。

・発信力が弱いのは1つ課題かと思う。それを改善というか伝える意味で、SFMは意義が

あったかと思うが、さらに発展する形で、例えば人々の流れの動線を決めて、それに1つのテーマを決めて発信、提案などが必要かと思う。

- ・発信力とか SFM とか、いろいろな角度から議論が必要だというご意見と思う。

- ・基本的には子どもの文化権を保障するという言い方をしているが、大人も文化権がある。今、推し活がはやることによって、そういうことに文化的なことでも何でもいいが、ライフ・ワーク・バランスみたいなものを持っていくことが認められるようになってきた。

- ・子どもに対しては、教育と教育の中に文化的なことを入れていく活動も結構あると思うが、小学校は今、チラシを配布しないところがすごく多い。ペーパーレス化と職員の働き方改革が多分主な理由だが、子どもがチラシを持って、この体験をしたい、参加したい、見たいという機会が失われていることに結構危機感を持っている。

- ・それは、教育委員会の方針や先生の働き方という大事なテーマが関わるので、難しいところかと思うが、SFM もたくさん文化が周りにあるのに、子どもがアクセスしづらいというところに、今とても危機感を抱いている。

- ・親が学校のホームページを見たり、チラシが配信されるが、親のフィルターを通してしまう。親が忙しいとそもそも見ないなど、文化体験が周りにたくさんあってもアクセスが制限されたり、子どもの権利、意見表明権や、行きたい、見たいというところにすごく制限がかかることに、少し危機感を抱いている。

- ・新宿駅周辺の再開発については、経済や効率を優先させると、どうしても他のまちと似てきて、色気がなくなるところがもったいないと思う。

- ・新宿は、多様性の中には雑多さや無駄なところというか、最大公約数的にまとめると消えてしまうようなものがたくさんあると思う。区長もお金の使い方を言われ、区が守っているが、大事にしていくという雰囲気を出していかないと、消えてしまうのではないかと危機感を持っている。

- ・子どもの文化活動の問題やアクセスの問題、それから再開発の効率優先に対する疑問とか、様々な指摘があった。

- ・基本的には今までの流れで、発信の力や新宿駅が新しくなることについては、継続的に話し合う必要があると思う。新しい視点として、今までずっとこちらから発信とかの形が多かったが、最近の若い子は参加型や共感とかを大事にしているので、参加や共感などの考え方を入れていただきたい。

- ・条例中の「誰もが」について。文化芸術というと、関心のある方にはとても身近なものではあるが、少し縁遠いとか、違うなと思う方も多いと思う。でも、区民や新宿を訪れる方は「誰もが」なので、そういう関心のない方たち、なかなか声の届かない方たちに対してのアプローチ方法も視点に入れてほしいと思う。

- ・「誰もが」の中に、社会的に弱者な、障害を持っている方とか、あるいは、みんないずれ高齢者になるわけで、高齢になったときに、どのように文化に関わり合っていくのかという視点も少し話し合えたらうれしいと思う。

- ・発信力、いわゆる拡散か。いろいろな方々の、受け手の力も借りていくという部分かと思う。また、「誰もが」と条例にも書かれている部分も重要な指摘と思う。

- ・進学で上京したが、地方から見ると東京は文化もあり芸術もあり全てがある。当時、新宿区内に在学していたが、文化的でも芸術的でもあり、こんな楽しいまちはないと思った。

- ・以前は演劇の舞台系の中心は新宿であったが、今は豊島区に移っている。理由は、西口に

ある東京芸術劇場が拠点であることだと思う。

- ・新宿区の文化の拠点は新宿文化センターだと思う。子どものものから大人対象の芸術まで、全て催し物としてあると思うが、新たな時代に向かったの事業展開又は運営方針みたいなものを中心に考えたらどうか。他区と違うものを展開することによって、他区やその他都府県のものとの差別化ができていくと思う。

- ・文化芸術というが、文化と芸術は根本的に違うと思う。文化と言ったら全て。この紙コップも文化だが、芸術ではない。だから、文化芸術と一括りで言うとてもすごく大雑把になってしまい、とりとめのない話になってくる

- ・「文化って何か」と言ったら、基本的に芸術が先にあり、それが一般的に認知され広く普及すると文化になっていくと思う。

- ・例えばK-POPは芸術ではなく文化だと思うが、K-POPの音楽自体を掘り下げていくと、全部ドレミファソラシドで、これは西洋音楽の芸術の根本。こういうことから、芸術なのか文化なのかを切り分けて議論するのも面白いかなと思う。非常に深い話で難しいが、ごっちゃにするとよく分からなくなる。

- ・今、実演芸術界が抱えている大きな問題は、国立劇場の休館。完成が8年か9年後ぐらい。その間、伝統芸能はどうするという問題がある。

- ・国立劇場でやっていた演目が多く、浅草公会堂と日本橋劇場や他の文化施設に流れていて、浅草公会堂は来年ぐらいは満杯になってきた。国立劇場で演じたものが新国立劇場に行き、取り合いにもつながっている。

- ・来年から東京文化会館と神奈川県民ホールという大きな2千人規模のオペラ、バレエをやるホールが閉まる。舞台機構等の問題で、オペラ、バレエができる館はそうはない。25年5月から東京文化会館が閉まり、新宿文化センターの開館が12月だから空白ができるのと、新宿文化センターに公演が集中していく。

- ・新宿文化センターを音楽・舞踊を重点にした会館にするという方針を一度決めているので、バレエ団やダンスカンパニーが集まるのはいいこと。それなりにいいポジションを確立できる数年間になるのではないかな。

- ・今後いろいろな施設が改修に入るので、東京はもう1つ大きい劇場があってもいいと思う。それを新宿区が建設するとかは大変なのかもしれないが、実はそのぐらいのニーズはあり、そういう文化施設の問題がある。

- ・ここ3年ほど、文化庁が中学校の部活動の地域移行、連携移行に取り組んでいて、東京都がこの間、全区市町村を集めて、どういう取組があるのかというシンポジウムをした。

- ・スポーツは地域クラブがかなり進行して、地域にスポーツ協会とかあるので、取り組みやすい。最大の問題は学校教科で、芸術では、あるのは音楽と美術だけ。実は東京都内には文化施設がたくさんあり、教える人とか、芸術をやっている人とかいっぱいいて、これこそ東京ならではのと思うので。

- ・新宿区も、伝統芸能から現代芸術まで多彩な名誉区民がおられ、劇団やオーケストラがあり、小さい文化施設も多いので、地域に文化活動の拠点をいっぱい作って、多様な新宿区だからこそ、区内でも特徴ある部活動の移行というか受け皿のモデルを示せるのではないかな。

- ・特に新宿ならではの多様性をずっと言われてきた発信。オリンピックに向け、あるいはコロナ禍を受けて発信するというのが中心になったので、地域で特色ある文化の地固めをするのもそろそろあってもいいという気がした。

・大きくは施設の問題と、課題になっている子どもたち、中学生の問題。これができるれば世帯も広がっていくので、そういうものが議論できればいいと思う。

・文化施設、地域移行とも、誰がコスト負担をどうするのか等大きな問題があると思う。

・文化施設は確かに今、劇場は東京周辺が結構厳しく、特に大きいほうが厳しい。ただ、いずれ神奈川も、知事が作ると言い切ったので、できると思う。

・新宿区の魅力は23区の中でも特殊で、多様性にあふれて、外国人居住者も非常に多い。いろいろな芸術が多岐に渡り、すごくニューヨークに似ている思う。

・ニューヨーク在住時に「これいいな。こんなのがあったら」と思える事例が幾つもあった。

・新宿区に多くの芸術家の方々が住む。小学生、中学生からいろいろな教育というか、自然とそれが身につくようになるのが一番いいと思う。

・アート、美術を必修で学ぶのが義務教育の中学校までという日本において、いかに国民のアートリテラシーを高めてグローバルに通用する人材を輩出できるかが国立美術館の目標だという話を聞き、本当に重要だと思った。

・新宿区もそういう目標を掲げて、新宿に住むといろいろな芸術を小さい頃から自然に身に付けることができ、知らないうちに将来グローバルに通用する人材に育っていくようになる、と、「新宿に住みたい」と思う人もたくさん出てくるのではないかな。

・例えばパリでは、26歳以下のEU市民は、ルーブル美術館でもオルセー美術館でもただで入れる。日本は治安がよく、中学生同士でも美術館を訪れたりとかできるが、美術館は今すごく高くて大人だと2,200円とか映画を観るよりも高い。2時間、3時間と時間がまとまってあるときに2,000円出して美術館を回ることはあるかもしれないが、ただなら、空いた時間に好きな絵だけを見られるとか、そういう環境がつくれると、国立美術館が目標とすることが達成しやすくなるのではないかな。財政のことを無視しているが。

・他にニューヨークでおもしろいと思ったのは、ブライアントパークで大きなスクリーンで「ローマの休日」とか名画をただで観られる。新宿区でも、新宿御苑みたいなすばらしい施設があるので、そういったことも参考にしてみようかな。

・新宿の南口とか時々通ると、ストリートミュージシャンがいる。ニューヨークでは、市がオーディションをして免許を配布するので、彼らの活躍の場になる。無給なのは分からないが、外国だと気に入ったらチップを渡したりするので、多少なりとも生活の足しにできたりする。そういうことを積極的にやっていたら面白いのではないかな。

・新宿区は外国人居住者も多いが、例えばスペインにはサン・ジョルディの日（4月23日）があり、女性が男性に本を贈り、男性が女性にバラの花を一輪贈る、すごく素敵な習慣がある。スペイン出身の方とかもいっぱいいると思うし、そういったことを新宿から発信していけたら、新宿区の魅力も増していくと思う。

・国際女性デーが3月8日で、30何か国では国民の祝日にも設定されているが、日本では誰も知らないと言ってよい。ヨーロッパでは国際女性デーは男性から女性にミモザを贈る習慣があるが、ほとんど知られていない。そんなことを、多様性にあふれ、外国人居住者も多い新宿から発信していけたらとても魅力的な区になるし、新宿に住んで子どもを育てたいという人も増えてくるのではないかな。

・ルーブル美術館はコロナ禍前では、年間約1,200万人の来館者のうち4割が無料と聞いている。若い方、失業者、高齢者その他の方々は無料で、他の人たちはかなり高い入場料

を払う。今後も多分値上げをガンガンしていくと聞いている。

- ・持てる人からはきっちりいただいて、そうではない方に開放するのが一番
- ・日本は皆さんにあまねく等しくという国なので、なかなか難しいところがあるが。
- ・コロナ禍が非常にひどくなり、文化芸術不要不急論が結構話題になったが、美術関係者は必要なものと大反対した。
- ・ほとんどの文化施設が一度閉まり、再開後のお客様アンケートにかなり感動した。「開館してもらってありがとう」という感謝が一番多かった。「癒されました」、「旅行気分を味わえました」とか。文化芸術はとても大切なものだ、不要不急論は吹っ飛んだ。
- ・鑑賞者の視点では、体験の重要性をすごく感じており、SOMPO美術館は、新宿区の小中学生を休館日に受け入れて、他のお客様がない中で鑑賞体験を積んでもらう。
- ・子どもたちに「美術館に来たことある？」と聞くと、大体10%に届かない。小学校4年生が中心になるが、ほとんど初めて。子育て中の親御さんが多分美術館に行かないから、子どもも来ない。
- ・多様性の中でしっかり自分の意見を言えて、しかも自分で考えて行動できるのが、一般的に言われるグローバルな人材では重要なポイントだが、答えのない芸術の世界では、見を言えることが重要で、子どもの教育上も非常に重要だと思う。
- ・対話型鑑賞教育後に、「今日、どうだった？」と子どもたちに聞いた中で、その学校のガキ大将みたいな感じのお子さんが、「今日は頭を使い過ぎて頭が痛い」というのが、今までの経験の中で一番のいい回答と思った。それだけ絵を考えていたのだろう。
- ・芸術では美術史を知っていると、音楽の世界でも好きな方は勉強して詳しいが、まずは接して感じていただく。その鑑賞者の皆さんの心の中で起こるようなものを体験する機会を提供するのが、鑑賞者の観点では一番重要と考えている。
- ・美術館では、何らかの形でパブリックからの支援、母体から又は対外的な寄附が必要で、株式会社のように単独で経営できる文化施設はほぼないと思う。それだけお金がかかる。
- ・美術館なら、通常の展示以外に作品の保存にもかなりお金がかかり、広告費にあまりお金がかけられないのが実情である。
- ・実際、SFMによる集客効果は、実は今あまりない。それは見ている人が少ないというのか。SNS等の活用もまだできていないので、お客様からの口コミ効果もまだ得られていない状況で、アピール不足だと考えている。
- ・SFMガイドブックは実際につくる工程で、普段接しない他の芸術分野の方との接点があるのは有効。SFMの会議に出る担当者のお話では、区の動きとは別にいろいろなところと接点を持てて、一部コラボレーションが実現したケースがあった。
- ・逆に、事業者の立場では魅力的だけではなかなか厳しく、それを線にして面にするような動きを、そういうグルーピングや働きかけが第三者的にできる新宿区のようなパブリックから働きかけることで、芸術団体の魅力が高まり、来館者に来ていただけるような好循環をつくるようなところがあればと考えている。
- ・好循環の話は本当に必要なことだと思う。
- ・区長挨拶の中で、漱石山房は無駄だと批判されても誰かがやらなければならない。逆にそのよさをどうアピールしていくのが大事で、いろいろ議論をしてほしいというような考えと受け止めた。全くそのとおりと思う。
- ・全国的には少子高齢化が至るところに影を落としていて、文化芸術も後継者の問題だけ

でなく、マーケットがどんどん小さくなっているのを実感する。

- ・いろいろな調査でも、舞台、劇場に来る人は、ボリュームゾーンは60代、70代前半だが、特に劇場は、その時間にその場所にいなければいけないという制約があるので、75歳を超えるとガクッと減る。

- ・今後も文化や芸術、ミュージアム、劇場に行く人の出現率が同じであれば、当然コアホートの人口が減るから、マーケットが小さくなっていくので、ものすごい危機感がある。

- ・かつては政府もいろいろな手を打ち、若い世代を定住させるために文化を使うみたいなことが30年ぐらい前まで言われていたが、その時代も過ぎて、今は交流人口である。

- ・文化や芸術を資源として使って、観光客、インバウンドも含めて人々を集めるということで、ミュージアムや文化財などが今非常に脚光を浴びているが、本当にそれだけでいいのかと強く疑問に思う。

- ・文化は市場でなかなか成り立たないのであれば、何らかの公的な関与が必要で、その理由、どうやってよさをアピールするのか、評価はどうするのか、それを社会的な資源の再分配につなげていくのかということところが、全国的に喫緊の課題になっている。

- ・新宿区は、そこまで追い詰められていない感じで、まだ少し時間的余裕がある。今、いろいろな形で、これまで参加していない方々、住む方々だけではなくて、来る方々。条例では、「私たち区民」というのは来街者も全部含んでいる。新宿区で勉強する人、働く人、住む人、みんな区民と考えているので、こういう人たちをできるだけ増やして、その人たちの満足度を上げていくことが、可能性を追求する最後のチャンスかと非常に強く感じている。

- ・具体的なテーマとしては、例えば7期の課題の、新宿駅の周辺。再開発とどういうふうに絡めていくのか。さらに地域の分析もして、各主体との連携もしながら、劇場だけではなくて、ミュージアムも含めて考えていくというような指摘もあった。

- ・発信力をどういう形で高めていくのか。それから、それを子どもの文化活動などにつなげていくのか。また、つなげる形もICTを使うと同時に、参加、共感や拡散等いろいろな形での協力を得ることとか、それによって差別化も図れる可能性もあるし、大きいところでは文化施設とか地域移行の話も考えられるのではないかとのご指摘もいただいた。

- ・新宿区全体が非常に多様化していて、グローバルに戦える可能性もあるという指摘も含めて、いただいたご意見を踏まえて、専門部会で議論をしていただきたいと考えている。

- ・私どもはスウェーデン国立美術館と対話型鑑賞を進めている。北欧諸国と日本は、これから超高齢化社会を迎える中で、対話型鑑賞によって、アートを高齢者の社会的孤立や認知症の予防につなげるることについて、共同研究、ワークショップなどをやっている。

- ・それを子どもに応用し、対話型鑑賞をして、好きな意見を述べてもらい、最後にインタビューすると、「自分と違う考え方をする人がいるんだな。面白かった」みたいなことを、小学校の3年生、4年生ぐらいの男の子が話す。

- ・そういう意味でも新宿区は美術館もあるし、対話型鑑賞みたいなものを進めていければ、よりお互いのことを理解できる、いい区になるのではないかしらと思うし、外から見ても魅力的な区になるのではないかしら。

- ・対話型が認知症にもすごく効果的というのは、東京藝術大学の日比野学長が今すごく進めているところなので、ぜひ取り組んでもらいたい。

- ・子どもが小さい頃から多様性を学ぶこともすごく大事なことでと思うが、大人が改めて、凝り固まった感覚を戻すためには、いろいろな多様性を知るということで、障害のある方

とのワークショップも考えてもらえるとうれしいと思う。

- ・子どもだけではなく、大人の対話型のイベントを展覧会で毎回1回ずつやるが、すぐに枠が埋まる。

- ・日本では、音楽はもちろん美術館でも静かに見たいという方が過半以上で、普段は静かな環境でないと駄目なので、対話型でやるとなると休館日になるが、すごい人気。リピーターも結構多い。地方から新幹線で来る方までいる状況なので、美術に限らず人の話を聞きながら芸術に触れたいというニーズは一定以上あると思う。

- ・博物館関係は、障害者の方と付き添いの方1名までは無料なところが9割以上のイメージがあり、まず行ける環境にはあると思う。

- ・気にされているのが、例えば混んでいるときの車椅子の動線など。国立系は車椅子の動線は結構整備されているが、新宿区の施設では整っていないケースは多いという感じがあるから、別枠で考えるのはあると思うが、そのために施設を大規模改修とかは、広さなどの問題もあるから、工夫は必要と思う。

- ・障害者に関する芸術活動の推進に関しては、オリパラを契機に法律もできた。それに対しての対応も1つの課題とは思いますが、ハードについては難しいところもあるので、いろいろ検討する必要があると思う。

- ・今まであまり話してこなかった美術館とか美術の問題が出て、大変有意義だったと思う。

- ・スポーツ関係も全く対象外になっていることは前提としておく。スポーツのことは、他のところで考えてもらおうということもある。

- ・今まで子どもの存在もあまり考えてきてないので、これからは考えていくほうがいいのではないかな。

- ・新宿区は区立美術館を持たないが、SOMPO美術館が代わりにやるような感じで、館のほうでもそのように考えているのか。

- ・運営の理事会の中で、新宿区立美術館を目指そう的なところで頑張ってくれている。

- ・企業メセナ協議会のここ3年ぐらいのメセナの対象は障害者のアートで、いろいろな包装紙に使われたりとかして、障害を持つアーティストの方にロイヤリティみたいなものがきちんと還元されるようなシステムが確立されていると受賞の対象になりやすい。そういうのは本当にいいと思う。

- ・例えばSFMのガイドブックも、表紙に使われてもロイヤリティを支払うことはできないかもしれないが、それでもこういう表紙を飾るというだけで、描いた方々の励みになるというか、すごくいい、それこそ好循環が生まれるのではないかなと思った。

- ・それぞれ基準があり、障害者の方の作品をとというものでも必ずしもないのかなということもあるが、いろいろな形で配慮されることも重要と思う。

- ・コロナ後、外国人訪日客が過去最高になったが、経済的にも多少プラスに観光関係はなっていると思う。我々の主催公演でも、コロナ前よりはるかに多くの外国人のお客さんが目につき、日本の会員のお客様が「びっくりした」「いい傾向だね」と。

- ・多いときは、2千人キャパのホールの約1割いる。今後さらに伸びていけばいいと思うが、それはインバウンドである。

- ・インバウンドの逆、アウトバウンドはどうするという話で、海外からの招聘等が頻繁にあり、韓国ソウル公演、サウジアラビア公演、アラブ首長国連邦公演、ヨーロッパ公演、台湾公演などがあった。

・昨今、国際的に日本の地位が低下している中で、文化芸術団体としてやれることはやり、日本のファンを増やし、日本を支持してくれる人が増えれば、国際的な日本のプレゼンスが高まるかと思う。

・新宿区で、アウトバウンド的なアピールできるものがあるかもしれない。いろいろなものがあるが、それがいいというものもあるが、やはりこれみたいな何か、国際的にあれば、随分違うのではないかな。

・国際的にはゴッホの絵がある。

・例えば「ディープな新宿」というイメージで言うと、夜のゴールデン街はインバウンドがすごく多かったりとか。やはり今、発信力で、海外の方にも魅力的なところをつくれるような感じはする。

・それは、個人ベースのSNSが非常に効果的と聞いている。

・長岡市の芸術文化財団が、隅田川がテーマのオペラを制作し、市内での上演後にエジンバラで引っ越し公演をしたように、外へ持っていくためのもの。経済的な点で言うと、売れないとコストが高くなって、撤退というようなことになるので、外に出していくみたいな形で考えられればいいと思う。

・マーケットをどう広げていくか。定住人口が減っていくので、そこをどううまく乗り越えていくか、補充していくか、いろいろな知恵を出していくことも必要。そのときに鍵になるのは子どもであるというようなご意見も頂戴した。

・新宿区の1つの目玉として、神楽坂はもう少し考えてもいいのではないかな。

・SFMの宣伝効果があまりない。ガイドブックは、そういうことを全然考えないで、まずどんな文化があるかというまとめで作ったので、もっと発信、みんなに知らしめるには、これから考える。

・SFMは、プラットフォーム的な役割が最初大きかったが、ここまで継続されている以上、発信力も必要だということになるかなと思う。

・神楽坂のイメージがよく分からない。神楽坂をどのように議論するのか。

・いろいろな神楽坂の飲み屋街とか裏町とか。何かいい雰囲気と思う人が多いと思う。新宿駅周辺とはまた違った新宿がある。

・新宿の魅力を少し深掘りするというあたりか。新宿を外に、外国にコンテンツを持っていくという意見もあった。非常に幅広いご意見があった。専門部会で論点を整理し、資料を作成する。

8 専門部会の設置及び専門部会員の指名

新宿区文化芸術振興会議規則第6条の規定に基づき専門部会の設置が決定され、同条第2項の規定に基づき、垣内会長が、垣内会長、梅本副会長、大和委員を専門部会員として指名した。

9 事務連絡等

第2回会議は、3月頃に開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

10 閉会

会長の挨拶をもって、午後３時３０分に閉会した。

- * SFM：新宿フィールドミュージアム
- * 条例：新宿区文化芸術振興基本条例